



写真：キクマヤスナリ YASUNARI KIKUMA

山のシュール 2019 関連企画

「夜の水庭に、謡い、舞い、」紹介展

近藤 高弘

# 水庭と空和

みず に わ

う つ わ

2019年 9月 13日(金) — 10月 19日(土)

10:30 — 19:00 | 定休日：日曜・月曜・祝日 | 入場無料

ギャラリー冊 東京都千代田区九段南2-1-17 パークマンション千鳥ヶ淵1F

オープニングイベント 対談「近藤高弘×港千尋」9月13日(金) 19:30-21:00

GALLERY  
**冊**  
SATSU

私はこの森のような水庭を初めて体感したとき、どこか違和を感じながら、でもなぜか心身が喜んでいるという不思議な感覚に陥った。そして、庭を後にして、部屋に戻って何気なく庭での余韻を感じながら考えていた。建築家は、自らのビジョンによって、計算した空間を作る。その作為という意味と意図の中に、自然の刻々と変化していく人間が予測できない時間と空間が取り込まれているのがこの水庭だ。だから、通常自然の森に入り込んだときに一瞬襲われる畏怖畏敬の緊張感とは違う、安心感を与えてくれているのであろう。

私は、これまで「土を媒介に火の中から水を表現する」というコンセプトで作品を制作してきた。であるならば、水庭に火が介入することは自らのこれまでの火水のキーワードともつながる。そして、近年思考している作為と無作為をテーマにしたウツワの造形であれば、この空間の思想や美意識とも響きあえる可能性がある。

虚と現実、モノが交じり合い、移ろい行く空間を内包しているというのが、私のウツワの概念である。だから、ウツワを空なる和「空和」と考えている。

人間が経験や技術や思考によって生み出す創作という作為と、人智を超えた自然や偶然、無心の美という無作為。この、相反する創造行為は、「空和」ウツワの中では、有効となりえる。

作為の中にある無作為、無作為という作為は、今回この水庭と空和の関係によってアートに昇華することを期待したい。

## 近藤高弘 TAKAHIRO KONDO

1958年京都市東山清水に生まれる。学生時代卓球選手として高校・大学の日本チャンピオン、国際大会日本代表。京都市工業試験場研修生修了後、陶芸家の父・近藤瀧の工房で修行。2002-2003年文化庁派遣芸術家在外研修員、エディンバラ芸術大学修士課程修了 (Inglis Allen Masters 賞受賞)。近年の個展に、瀬戸内市立美術館 (岡山)、ジョンBマービスギャラリー (ニューヨーク)、何必館・京都現代美術館 (京都)。メトロポリタン美術館、スコットランド国立博物館、ギメ美術館他パブリックコレクション多数。

## 大蔵山スタジオ OKURAYAMA STUDIO

宮城県南部の阿武隈山系北端に位置する標高300mほどの里山・大蔵山。この地で採取される伊達冠石は、今から約2000万年前にこの地に噴出したマグマと海底沈下により生成された玄武岩質安山岩である。焼き物のような表情を持つもの、土色のもの、様々な表情をもつ表面に対し、内側は一律に黒檀色を呈しており、また年月とともに鉄錆色が少しずつ深化してゆく独特の石である。この伊達冠石を包み込んでいる、深い赤みを呈した土「大蔵寂土」は伊達冠石が長い年月を掛け、地中で石が分解されて生成されたもの。赤い顔料は古来神聖な色として、世界各地の墳墓の石棺内部や、民族衣装、祭祀を行う際のボディペインティングなど、様々な場面で使用されてきた。大蔵山スタジオでは、伊達冠石や大蔵寂土が産出する大蔵山全体を神聖な場と捉え、山の恵みに感謝する気持ちを込め、この山より産出される巨石を祀った文化施設群を建造、太古の時代に共有していたプリミティブな感覚を呼び覚ます機会を、この地を訪れる人々に提供している。今回の企画はこの土を用いた、世界で初めての陶芸作品としての試みである。

## キクマヤスナリ YASUNARI KIKUMA

静岡県出身。2002年に渡仏、独学で写真を始める。2005年より日本やヨーロッパを拠点に活動。2013年 Prestel社刊行のNew Fashion PhotographyにてNick Knightとともに世界のファッションフォトグラファー27人に選ばれる。2014年渡米。2016年日本に拠点を移しsymphonicにてマネージメント業務開始。広告写真やCMなどで活躍中。

## アートビオトープ「水庭」 ARTBIOTOP "MIZUNIWA"

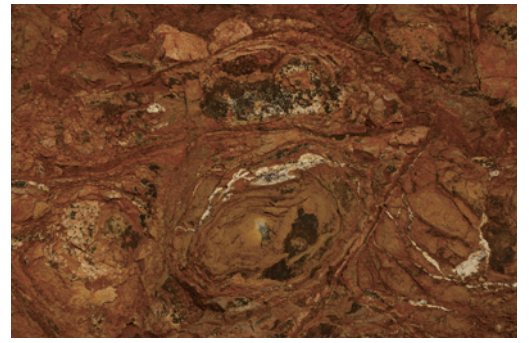
日本のブティックリゾートを牽引してきた「二期倶楽部」創立20周年記念の文化事業として2007年に栃木県那須にオープンした『アートビオトープ那須』。2018年6月、その隣接する土地に日本建築学会賞など多数の受賞歴を持つ話題の建築家・石上純也氏が手がけた「水庭」が新たに加わりました。この庭は318本の木を移植し、その間に160個の池をモザイクのように点在させた他に類を見ない庭園です。

## オープニングイベント 山のシュレ 2019 特別対談 「近藤高弘 × 港千尋」

ジャンルを軽々と越境し続ける文化人類学者、港千尋さんとの対談です。

9月13日(金) 19:30-21:00 軽食付 4,000円(税別)

お申込みは、山のシュレウェブサイトへ [www.schuleimberg.com](http://www.schuleimberg.com)



上・中：伊達冠石と大蔵寂土 写真提供：大蔵山スタジオ © 柗木功 Isao Hashinoki / 下：近藤高弘「大蔵寂土碗」

## 山のシュレ 2019 関連企画

### 「夜の水庭に、謡い、舞い、」

10月5日(土) 16:00-19:00

出演：安田登(能楽師)他

ご参加費：10,000円(税込)

会場：アートビオトープ那須

※那須塩原駅からの無料シャトルバス(要予約)を運行いたします

お申込み：山のシュレ [www.schuleimberg.com](http://www.schuleimberg.com)

お問い合わせ：アートビオトープ那須 0287-78-7833

○ご宿泊プラン(24,000円～)をご用意しています



## ギャラリー冊

東京都千代田区九段南 2-1-17 パークマンション千鳥ヶ淵 1F  
東西線・半蔵門線・都営新宿線「九段下」駅 2番出口徒歩 10分  
TEL 03-3221-4220 [www.satsu.jp](http://www.satsu.jp)

※店舗入口は、建物南角(千鳥ヶ淵戦没者墓苑側)のガラス扉です。居住者専用入口(木製扉)とお間違いないようお願いいたします。